【　日　出　町　】

令和５年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校）

調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等								
小学校 6年生 国　語	全体	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	67.2	71.2	63.4		72.6	26.7	71.2	68.9	65.5		73.6	62.7	51.1
県	69.0	71.6	63.2		76.0	28.3	72.9	69.2	67.8		74.5	63.0	54.2
日出町	70.0	72.1	69.0		77.2	32.9	72.0	71.3	68.7		76.3	63.5	55.2

○教科全体の平均正答率は、全国平均を２．８ポイント上回っている。
○すべての領域別平均正答率・観点別平均正答率で、全国の正答率を上回っていた。領域別平均正答率「思考力・判断力・表現力等」の「読むこと」が県平均と比べると低かった。
○「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が６１．５％（全国６２．０％）と、全国と比較してやや低い。
○「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が低かった。

小学校：算数

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
小学校 6年生 算　数	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	62.5	67.3	48.2		70.9	65.5	67.2	56.5		57.7	74.7	47.3
県	64.0	68.5	51.0		71.1	67.5	68.4	58.7		59.6	75.3	50.3
日出町	63.0	66.7	47.7		69.3	69.3	68.0	56.0		58.7	74.9	46.5

○教科全体の平均正答率は、全国平均と同レベルの数値である。
○領域別正答率では、データの活用以外の領域で全国平均を下回った。
○観点別では「知識・技能」は平均値を上回ったが、「思考・判断・表現」の分野で課題がみられる。
○データの活用の領域では、全国平均を上回っていた。
○数と計算、図形、変化と関係の領域では、全国平均をやや下回っていた。いずれも記述式で説明する問題に課題が見られる。（高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて説明する。伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。）
○示された基準量と比較量から、割合が３０％になるものを選ぶ問題については、無回答も多かった。

令和５年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校）

調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等								
中学校 ３年生 国　語	全体	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	69.8	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7	69.4	69.7		73.1	65.6	68.0
県	69.0	65.2	62.6	76.4	81.4	60.1	62.2	69.3	68.1		71.9	65.2	66.6
日出町	71.0	63.5	67.5	81.1	79.0	64.6	65.1	72.2	69.6		72.7	68.3	69.5

○教科全体の平均正答率は、全国平均を１．２ポイント上回っている。
○領域別平均正答率では、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」が全国平均を下回っている。
○「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題では、正答率が７２．１％（全国７４．２％）と、全国と比較してやや低い。
○「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる」問題では、正答率６９．４％（全国７６．６％）、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問題では、正答率３４．１％（全国４３．９％）で、全国平均より特に低くなっている。
○正答率が５０％未満の生徒の割合は、１６．０％（全国１９．５％）で、全国と比較して低い。

中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校 ３年生 数　学	全体	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	51.0	63.0	33.2	51.2	48.5	55.7	41.6		45.3	62.6	41.6
県	49.0	60.8	28.7	50.4	48.3	53.9	39.5		42.5	61.5	39.5
日出町	51.0	65.2	28.1	53.1	49.1	56.0	41.9		44.3	63.8	41.9

○教科全体の平均正答率は、全国平均と同率である。
○領域別では「図形」が全国の正答率を下回っている。
○数と式、関数、データの活用の領域で、全国平均を上回り、図形の領域で、全国平均を下回った。
○説明する問題（文字式の説明で条件を変えて考えること、箱ひげ図で箱の特徴に着目して傾向を読み取ること、図形の証明である事柄が成り立つことを証明することなど）で、無回答率の生徒が２５％程度いた。
○全国や県の無回答率と比較すると差は小さく、同じ傾向にある。

中学校：英語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校 ３年生 英　語	全体 （話すこと除く）	(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと ［やり取り］	(4) 話すこと ［発表］	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	45.6	58.4	51.2	14.5	4.2	23.4	51.5	38.8		54.8	30.1	13.5
県	41.0	53.3	47.5			19.1	46.3	35.5		50.4	24.1	11.7
日出町	43.0	56.3	50.1	5.4	2.6	19.5	48.3	37.6		53.2	24.7	11.6

○教科全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。

○「聞くこと」は、県を３．０P 上回っているものの、全国より２．１P 下回っている。「読むこと」は、県を２．６P 上回っているものの全国より１．１P 下回っている。「書くこと」は、県を０．４P 上回っているものの、全国を２．９P 下回っている。

○長文の読み取り「読み取った内容をふまえて、対話文を完成させることができる」のような、聞いたり読み取ったりした内容をもとに英文を書くような技能統合型の問題では、正答率が低く、無解答率が高かった。また、「書くこと」においては、情報に基づいて２５語以上で場面に応じて書く英作文の問題で無解答率が高かった。

具体的な改善方法

□ 各教科の改善策

【国　語】

○指導事項を明確にした授業を行う。また効果的なメモの取り方の指導を行い、意識させる。

○漢字の成り立ちや意味のおもしろさ等について、授業の中でポイントを押さえた指導を行うとともに、学習した言葉の力が生かせる場の設定をする。

○「伝えたいことは何なのか」を常に考えながら、聞いたり読んだりすることを意識させる。

○相手を意識し、立場や根拠を明確にして話したり書いたりする活動を大切にしていく。

【算数・数学】

○各学年での基本的な学習内容の定着を図る。

○基本的な問題を繰り返し練習し、問題を解く時間も意識させる。

○数の合成分解（4500 は 10 が 450 集まった数など）について、小学校低学年から意識して取り組ませる。

○自分の体や身近なものと単位を結びつけて考えさせ、量感を養う。

○単位の変換や百分率・小数・分数・歩合のそれぞれの表し方や互いに変換することの習熟を図る。

○情報を取捨選択する問題で、何を使って答えないといけないかを読み取らせる。

○事実、理由、方法の説明などを意識して、思考・判断・表現をさせる場面を設定する。

○文章の主語は何か。尋ねられていることは何かを明確にする。

【英　語】

○「聞くこと」…教科書本文を扱う際もすぐ英文を読ませるのではなく、まずデジタル教科書などを使って聞かせる。→おおまかな内容をつかんだ後、次は画像を見せながら聞かせる。→そして、英文を読ませたり、書かせたりする活動につなげる。また、聞き取る際には概要や要点などメモを取らせる。

○「読むこと」…必要な情報や要点をとらえさせるために、長文内容のリテリングをさせたり、内容を短い英文でまとめさせたりする。

○「書くこと」…目的や状況、場面を踏まえたうえで、相手意識をもって英文を書かせる活動を行う。例えば、教科書本文に続く英文を書かせたり、ペアでスモールトークを行った後、話したことを英語

で書き起こさせ、自分で修正させたりするなどの活動を取り入れる。また、まとまりのある文章を書く機会を増やす。

○４技能統合型の活動を意識して取り組む。

○基礎・基本の定着のために、反復練習や小テスト、語彙や表現を増やすための会話活動などを計画的、継続的に行う。

○小学校英語専科教員の公開授業に積極的に参加し、中学校英語教員の小学校乗り入れ授業など、小学校外国語活動・外国語と中学校英語のスムーズな連携が図れるようにする。

□　学校全体で取り組む授業改善

○各学校の「授業改善の５点セット」おける検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらＰＤＣＡサイクルを機能させる。

○学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」、追求すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に行う。

○児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、様々な人との対話・協働により、異なる考え方を組み合わせたり、よりよい考えを生み出したりする等、生徒指導の３機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。

○【言語能力】教科を問わず指導過程の中で、教科書を含む各種資料を適切に読み取れる工夫を行う。また、根拠や理由を明確にしながら自分の考えをまとめ、表現する場を設け、話す・書く力を育成する。

○【言語能力】自分の考えを広げたり、深めたりするために効果的な交流の場を設定する。また、思考ツールや「言語能力育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。

○全国学力・学習状況調査の結果の分析を確実に行い、「授業アイディア例」等を積極的に活用する。

□　確かな見取りと個に応じた指導の充実

○つけたい力を明確にし、「具体的な評価規準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導や補充学習を行う。

□　町標準学力調査を活用する

○１２月末、小学校４年生～中学校２年生全員を対象に町標準学力調査（小学校は、国語・算数・理科、中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）を実施し、結果を各学校の授業改善に生かす。

○調査結果をもとに、各学校で１年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

□　家庭、地域との連携

○規則正しい生活習慣づくりのため、「１０（１１）―７－１運動」「テレビやゲームは１日２時間以内」の推進を図る。

○学校運営協議会等を通じて、学校の教育目標や児童生徒の課題とその解決について理解・協力を要請する。

【　日　出　町　】

令和５年度　全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

１　調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

〇教科の愛好度

国語　７２．１％（全国比　＋１０．６％）
算数　５８．０％（全国比　－３．４％）
英語　８０．９％（全国比　＋１１．６％）

〇「５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いに、８２．４％（全国７８．８）が肯定的に答えている。

〇「５年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の問いに、７７．５％（全国７４．４）が肯定的に答えている。

〇「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか」の問いに、肯定的に答えている児童は２４．１％で、全国平均に比べ、１０．７ポイント高い。

〇「読書は好きですか」の問いに、７９．４％（全国比＋７．６％）の児童が肯定的に答えている。

●「５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、肯定的に答えている児童は５５．４％で、全国平均よりも８．３ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

〇「朝食を毎日食べていますか」に対して、８７．８％（全国８３．７％）が「毎日食べている」と答えている。

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに肯定的に答えた児童は６３．４％で、全国平均に比べ５．１ポイント低い。

●「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は８６．２％で、全国平均に比べ、３．６ポイント低い。

●「友達関係に満足していますか」の問いに、肯定的に答えている児童は８６．２％で、全国平均に比べ、４．１ポイント低い。

生徒質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

〇教科の愛好度

国語　５９．４％（全国比　－２．０％）
数学　５８．０％（全国比　＋１．３％）
英語　４０．６％（全国比　－１１．３％）

〇「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「２時間以上する」と答えた児童は４３．７％で、全国平均より１０．０ポイント高い。

〇「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「３時間以上する」と答えた児童は３３．２％で、全国平均より１４．９ポイント高い。

〇「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに８３．０％（全国７９．７）が肯定的に答えている。

●「１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資

料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、肯定的に答えている生徒は４５．０％で、全国平均よりも１７．１ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

○「朝食を毎日食べていますか。」に対し、８３．８％の生徒が「食べている」と答え、全国平均とに比べ、５．２ポイント高い。

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、９５．２％で、全国平均より３．９ポイント高い。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的に答えた生徒は、７５．５％（全国８０．０）で全国より４．５ポイント低い。↓

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、５８．５％（全国６６．４）で、全国平均に比べ、７．９ポイント低い。

２　日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

○小学校では教科の愛好度、中学校では教科の有用性が高い方が、正答率も高い傾向がみられたことから、児童生徒にとって授業が「わかる」「できる」「楽しい」と感じ、学習したことが生活に役立つことを実感できるような授業展開を大切にしていくことが重要である。

○家庭での学習時間は、小・中ともに「一日に１時間以上している」と回答した児童生徒の割合が、全国平均と比べて高く、家庭学習の習慣化ができていると考えられる。今後も、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、評価と指導を充実させていく必要がある。

●小・中学校ともに、「授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりも低い。

今まで以上に、ペア学習やグループ学習を日常的に取り入れた対話的な学習を意識するとともに、授業の中で考えたことを発表する機会を多く取り入れる必要がある。その際、何のために対話をするのか（目的）や何を話し合わせるのか（話し合いの必然性）等、授業のねらいと指導の意図を明確にして取り組む必要がある。また、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立った効果的な話し方の工夫ついての指導やＩＣＴ機器を活用した伝えあいや表現の指導を充実させる必要がある。

≪生活習慣・自尊感情等に関すること≫

○朝食の摂取率は、小・中ともに「日出町アクションプランの達成指標８５％」は超えており、よい傾向がみられる。今後も基本的な生活習慣の確立のために ※「１０（１１）－７－１運動」の推進をすすめていく。

※午後１０時（中学生は１１時）までに寝て、午前７時までに起き、１日１回目の食事（朝ご飯）をしっかり食べようという日出町での運動。

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに、肯定的に答えた児童生徒の割合は、小・中いずれも全国平均に比べ低くなっている。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童生徒の割合についても、全国平均に比べ低くなっている。一方、学校質問紙の「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」に対し、全ての小・中学校が「そう思う」と回答している。

子ども一人一人についての理解を深め、日常の授業や学校生活で子どもたちとの関わり方についての取組を深めていく必要がある。

●「自分にはよいところがあると思っていますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均と比べて低かった。学校の教育活動全体の中で、支持的風土ある学級づくりを行い、よりよい人間関係の構築をめざした取組を充実させる必要がある。また、人権尊重の３視点（生徒指導の３機能）に立った授業の工夫を進め、児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら、全員が有用感・成就感を実感できる授業の実現を目指していくことが重要である。

【　日　出　町　】

令和５年度　全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

１　調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

○「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」に対し、全ての学校が「そう思う」と回答している。自己肯定感の醸成は、学びを支える基盤であると捉え、学校全体で共通理解を図り、取組を進めることができている。

○「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立しているか」に対しては、すべての学校で肯定的な回答となっており、教育課程の活用ができていると言える。

●「児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT 機器をどの程度使用させているか」「教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、ICT 機器をどの程度使用させているか」の質問について、肯定的に答えた学校は県平均・全国平均より少ない。ICT 機器の活用については、課題がみられる。

●「前年度までに近隣の中学校と成果や課題を共有した」「前年度までに、近隣等の中学校と、合同で研修を行う」の質問について、県・全国に比べると肯定率が低い。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

○「前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか」について、両校とも「よく行った」と肯定的な回答となっている。他者と協力し合ったりできるような学習課題や活動の工夫の取組を進めることができている。

○授業におけるＩＣＴ機器の活用については、昨年度より進んでおり、生徒が調べる場面・自分の考えをまとめ、発表・表現する場面・やりとりする場面での活用について、両校とも「週３回以上」の活用ができており、県・国に比べて多い。授業以外での活用については、課題がみられる。

●「言語活動について、学校全体として取り組んでいるか」について肯定的に答えた学校は、県平均・全国平均より少ない。自らの考えがうまく伝わるような発言の工夫や話合い活動の行わせ方に課題がみられる。

２　日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

○各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取り組みやすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。学力向上推進委員会で、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行い、町内全体で取組を進めていく。

○すべての小・中学校で地域内の学校と調査の分析結果は共有できているが、研究や研修等の合同実施、教育課程の接続等については課題が見られる。小学校の学習規律、中学校の授業実践等を共有し、子どもたちの学びを持続させ、９年間を見通した学力の定着を図るためにも、校種を超えた校内研究会授業や公開授業への参加など、小中連携の取組を更に充実させたい。

○各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、今回、質問紙調査で挙がった課題について共通理解を図り、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、授業改善等の取組を連携して進める。

○ＩＣＴ機器の活用については、一人一台端末の活用について課題がみられる。実践交流等のＯＪＴや研修の機会を設け、日常的で効果的な活用を推進していく。